

(案)

新潟市総合計画について

答 申

令和4年 月 日

新潟市総合計画審議会



# 答 申

令和 4 年 月 日  
新潟市総合計画審議会

大合併により「都市と田園が調和する都市」として、大きな強みを得た新潟市は、平成19年4月に政令指定都市として新たなスタートを切り、今年で15年を迎えました。これまで築いてきた安心安全を土台に、未来に向かって着実に歩みを進めてきたと認識しています。

一方、全国的な人口減少、近年各地で激甚化・頻発化する自然災害、変化する国際情勢、新型コロナウイルス感染症による社会変化、デジタル化の急速な進展など、新潟市を取り巻く社会環境は、大きく変化しています。

大きく動き続ける時代潮流の中で、この素晴らしい新潟市を未来に向かってさらに進化させ、よりよい形で次の世代に引き継いでいくことが私たちに課せられた重要な役割です。次期総合計画は、明るい未来を実現するため、将来起こり得る変化や課題を見据え、現時点から取り組むべきことを私たちにさし示す道標とならなくてはなりません。

本審議会は、令和4年6月28日、総合計画素案の諮問を受け、4つの部会を設置し、市民や多様な主体が中心となったパートナーシップのまちづくり、新潟への誇りと愛着の醸成、新潟市を取り巻く状況や活かすべき強み、データや新たな技術の活用といった視点を踏まえながら、専門的な見地や、地域・市民などまちづくりの主体としての立場に立って審議を重ねてきました。

審議にあたっては、新潟市が目指す都市の姿や、その実現に向けたまちづくりの方向性をわかりやすく市民や多様な主体と共有し、互いに連携・協働しながら取り組んでいくことのできる計画となっているかという観点から検証を行いました。

その上で、市民一人一人が明るい夢や希望を持つことのできる、活力あふれるまちを築くとともに、豊かな状態でこのまちを引き継いでいけ

るよう、これからの新潟市が進むべき方向性について、活発に議論を重ねてきました。

審議の結果、総合計画素案は、新潟市の次期総合計画としてふさわしい内容であると評価します。

なお、計画の実施にあたっては、基本構想で掲げた「みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』を進めます」の理念のもと、「田園の恵みを感じながら、心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」の都市像実現に向け、あらゆる分野の政策を相互につなぎ合わせながら、市民や民間事業者など多様な主体と連携・協働し、オール新潟体制で進めていくよう要請します。

また、持続可能な行財政運営の確立を進めるとともに、新たに設定する成果指標を用いて客観的な評価検証を行い、政策効果の最大化と計画の適正かつ的確な進捗管理に努め、成果を市民と共有していくよう要請します。

このほか、特に留意すべき点としてまとめた別紙の意見・要望をふまえ、新年度からの円滑なスタートを目指し、計画策定を進めていくよう、要請します。

# 「新潟市総合計画審議会」素案への意見・要望

## I 基本構想

### 2 まちづくりの理念

- ・「新潟市の現状・時代の潮流」の部分における、新潟市の現状の記載について、課題を明確にする上にも、強みだけでなくネガティブな現状も記載してはどうか。
- ・「これからのまちづくり」の一部で、一般論と新潟市のまちづくりの話が混在しているため、両者を区別し、論旨が明確になるよう工夫したほうが良いのではないか。
- ・「心の豊かさ」は抽象的なので、市民の理解を促すため国の示すウェル・ビーイングの概念などを参考に説明を工夫してはどうか。
- ・環境の重要性が年々高まる中、単に自然と共存するのではなく、里山・里海・里潟のように市民と自然が共生するとともに、田園とともに自然をベースにしたまちづくりを目指していくといった方向性を打ち出していったほうが、新潟市の独自性が明確になるのではないか。

### 3 目指す都市像

- ・目指す都市像は、総合計画の核心となる部分であるため、もう少し記載を追加する必要があるのではないか。また、1)ラムサール条約の湿地自治体に認定されたこと、2)「都市と田園の好循環」をテーマにしたSDGs未来都市に選定されたこと、3)新潟都心地区が「都市再生緊急整備地域」に指定されたことについては、目指す都市像の背景で重要であるので明記し、この部分の他、他の箇所でもアピールした方が良いのではないか。
- ・これからのまちづくりは、市民及び多様な主体とのパートナーシップが、中核的な推進力となることをわかりやすく示した方が良いのではないか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな経済」の項目に、近隣地域と連携・交流した地域活性化の視点を加えてはどうか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、ワーク・ライフ・バランスの範囲を子育てと仕事のみ限定しない方が良いのではないか。
- ・三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、高齢化社会に対応した地域の医療や健康、福祉、介護の充実をもう少し強調した記載としてはどうか。

## II 基本計画

### 1 総論

#### (1) 人口ビジョン

##### ② 人口の将来展望

- ・市レベルの人口減少が、社会保障に及ぼす影響が大きいことについて示してはどうか。

#### (2) 将来想定される変化・課題を見据えた政策展開

- ・バックキャストिंगの視点に基づいた施策展開であることをもっと意識したものにしてはどうか。
- ・総務省の自治体戦略2040構想委員会の課題に対応する新潟市の課題を記載してはどうか。

#### (3) 土地利用方針

- ・土地利用方針の考え方と基本理念・目指す都市像・重点戦略・区におけるまちづくりの方向性との整合性を図る必要があるのではないか。
- ・自然環境の活用に関しては、ラムサール条約の精神であるワイズ・ユース（賢明な利用）の考え方を踏まえた記述としてはどうか。

### 2 新潟市を取り巻く状況

#### (2) 時代の潮流

##### ⑤ デジタル化の急速な進展

- ・社会課題の解決に向け、マイナンバーカードに連携した地域共通ID創設などのデジタル化によって、新潟市内で行政サービス、地域経済、生活福祉、医療情報の一体化を目指すことを記載できないか。

##### ⑦ 多様性を認め合い共に生きる社会への意識の高まり

- ・SDGsの原文に基づき、「誰一人取り残さない」ではなく「誰一人取り残されない」と記載してはどうか。

### 3 新潟市の強み

#### (1) 新潟市の強み

##### ① 都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ

- ・新潟市においても生物多様性の危機が迫っていることを記述してはどうか。

##### ② 国内外と結ばれた高い拠点性

- ・「国内外と結ばれた高い拠点性」は、地理的優位性と現状との間に乖離があることから、その点を踏まえた記載に修正してはどうか。

##### ③ 全国トップクラスの農業力

- ・今後の状況を見据え「生態系の保全」を「生物多様性の保全」に修正してはどうか。

##### ④ 世界に誇る豊かな食

- ・新潟市の食と農の強みを生かした特色を、より多面的に情報発信していく必要があるのではないか。

### 4 政策・施策の全体像

#### (1) 政策・施策の全体像

##### ② 成果指標の設定

- ・成果指標の設定に際しSDGsの関連を意識することだが、SDGsの指標に矛盾する部分もあると考えられるので、あまり偏らないほうが良いのではないか。

##### ③ 総合指標

- ・総合指標に市民世帯当たりの平均所得を入れてはどうか。
- ・総合指標の④「将来世代のことも大切に持続可能なまちづくりが進んでいると思う市民の割合」は、「将来世代に引き継ぐ目線で見た新潟市の評価」という趣旨より、「新潟市を将来世代に引き継いでいけると思う市民の割合」としてはどうか。

##### ④ 政策・施策を推進する5つの視点

- ・「活力あるまちづくり」「持続可能なまちづくり」の実現に向けて、「経済」「社会」「環境」の三側面の豊かさを調和し高めるとともに、その三側面の基盤となる「ひと=市民」に視点を当てた重点戦略を「見える化」できると、新潟市としてのオリジナリティがでるのではないか。

## 5 重点戦略

### （1）重点戦略

- ・総合計画全体として、若者がこのまちに残りたいと思えるよう、若者にとって魅力的なまちになるというメッセージを打ち出せると、他の施策も生きてくると思われる。意識的にキーワードを盛り込むなど、子どもや若者に向けた施策をよりわかりやすく見せてはどうか。

### 重点戦略6 誰もが個性と能力を発揮しながら、心豊かに暮らせる社会の実現

- ・政策目標として「共生社会」の実現を上位目標とするのか、「地域共生社会」の実現を上位目標とするのか整理してはどうか。
- ・生活習慣病への対応だけでは健康寿命は延伸しないと思われるため、他の要素についても触れるなど表現を工夫してはどうか。
- ・新潟市は先行してパートナーシップ宣誓制度を導入しており、そういう方々が胸を張って活動しているというのはよいことだと思われることから、いろいろな形の家庭を認めたり尊重することが計画の中でわかるようにしてはどうか。
- ・「子どもから高齢者まで…」という言葉は、子どもと高齢者に意識が向き20代から50代くらいまでの当事者感覚が薄くなってしまうことがあるため、「誰もが」を加えるなど表現を工夫してはどうか。
- ・戦略展開の方向や具体的な施策の内容と政策指標の整合性を図るようにはどうか。

### 重点戦略7 子育てしやすいまちづくりとこれからの社会をたくましく生き抜く力の育成

- ・
- ・
- ・

第3部会（第3回）意見集約表から転記

## 6 各分野の政策・施策

### (2) 各分野の政策・施策

#### 分野3 子育て・教育

##### 政策4 結婚・出産・子育ての希望がかない、子どもが笑顔で健やかに育つ社会の実現

- ・施策1「出会いから結婚・妊娠・出産・子育てにかけての切れ目ない支援」について、出会い・結婚と妊娠・出産が一緒に書かれていることでプレッシャーに感じる人もいられるため、これらを一つの施策にまとめるのが適切かどうかあらためて検討してはどうか。
- ・施策1について、妊娠や出産には適齢期があることを、中学校や小学校高学年といった早い時期から教育することを盛り込んではどうか。
- ・親同士や専門職とのつながりをつくるため、子どもの権利を知るため、教育・保育施設等と保護者との良好な関係をつくるためにも、親として育ち、学ぶことができる機会を確保することを盛り込んではどうか。
- ・1人目のところの産後のケアを丁寧にしていくことが2人目、3人目につながると思われることから、産後ケアの充実など産前産後の支援を手厚くすることを盛り込んではどうか。
- ・新潟市として子育て支援に力を入れていることが市民に伝わるような見せ方をしていくとともに、情報発信にあたっては、必要な人に的確に届くように、より効果的な手法に見直していくことにしてはどうか。
- ・子育て支援に関係する機関が一体となって取組むことでより効果が上がることから、関係機関の連携を進めていくことを盛り込んではどうか。
- ・子育て・教育の施策を推進するうえでは、担い手の量と質が担保されることが重要であることから、施策の内容に合わせた担い手の確保や研修等を通じた質の向上を進めていくことを盛り込んではどうか。
- ・労働時間の長さなど両親の働き方も子育てのしやすさに影響することから、経済分野と連携・協働しながら取り組みを進めていくことを盛り込んではどうか。
- ・市民の中にも子育てを支援したいと考える方々が大勢いることから、その方々の力を活かせるようコミュニティづくりや情報提供などの支援をすることを盛り込んではどうか。
- ・子どもは地域や社会にとっての宝物であり、子育てに対して支援することはやがて高齢者にも返ってくる未来への投資であるという意識を持ってもらうことが重要である。さまざまな家庭の形があることを前提としながら、子どもや子育て家庭を地域や社会全体で支えていくことを盛り込んではどうか。

- ・子育てをする若い世代が参加できる地域のコミュニティを築いていくことが重要であり、結婚するという形だけではない多様な家族が、地域や社会の中でつながっていくことで、重点戦略6でいう共生社会の実現にも繋がると思われる。SNSなどを通じてそういった人たちが辿り着きやすいような環境を作るとともに、コミュニティに対する補助金などの支援やボランティアが集まるような環境を作っていくことを盛り込んではどうか。
- ・地域共生社会の実現に向け、子ども・子育て施策とも関連させながら重層的支援体制を構築することを盛り込んではどうか。
- ・新潟市は少子化対策のためにどのような政策・施策に取り組むのか、市民レベル、多様なアクターレベル、地域コミュニティレベル、行政区レベル、全市レベルでどのように重層的に取り組んでいくか、という点について新潟市独自の視点と対策の方向性を示してはどうか。
- ・子どもの権利を守ることを全体的な考え方として持ちつつ、さまざまな家庭があるなかでも経済的理由によって子どもたちが取り残されることのないように配慮することが重要ではないか。
- ・子ども食堂は、貧しい人たちのための場所ではなく、誰もが来てよい場所であることがわかるようにしてはどうか。
- ・政策指標「婚姻件数」について、これからの時代は必ずしも結婚によらない多様な家庭の形が生まれてくると考えられるため、これを指標とするのが適切かどうかあらためて検討してはどうか。
- ・新潟市の子育て支援の取組は、民間の取組も含めて他の自治体にひけをとらないものであるにもかかわらず、有配偶出生率など子育てに関する指標が高まらない理由について、具体的にどの部分が不足しているのかを丁寧に分析してはどうか。

## 政策5 学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくりの推進

- ・
- ・
- ・

第3部会（第3回）意見集約表から転記

## 分野8 健康・福祉

### 政策6 生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現

- ・新潟市が先行して医療・介護・福祉のDXを行うことが、拠点化を進めるうえで重要だと思われる。国や県と連携しながら、さまざまな健診データの蓄積を活用した健康づくりを進めるなど、デジタル技術を活かした施策を盛り込んではどうか。
- ・施策1の「④悩みを抱える人のこころの支援」について、周りを気にして過度に悩むことのないよう、自分らしさを大切にするという視点を盛り込んではどうか。
- ・総合計画として、主観的なデータだけでなく客観的なデータも取り入れる方向性を示すと良いと思われる。政策6の政策指標のうち、市民アンケートによって測る「自分が健康だと思う市民の割合」や「新潟市の医療が充実していると思う人の割合」は、主観的な指標であるため、定量的な指標への変更や追加を検討してはどうか。
- ・生涯にわたる健康で安心な暮らしの実現を図るうえでは、子どもたちが自身の健康を意識して生活していくことも重要であることから、子どもが自分の健康状態をどのように感じているかを測る指標も盛り込んではどうか。

### 政策7 自分らしくいきいきと安心して心豊かに暮らせる地域共生社会の実現

- ・基本的方向について、「心豊かな地域共生社会」というように「心豊か」という言葉を入れてはどうか。そのほかにもキーワードとして「心豊か」という言葉を積極的に使うと、新潟市は心豊かなまちを目指すことが若者などにも伝わるのではないか。
- ・自分たちの生活が今後どうなっていくのかというストーリー性のある説明やハートフルな言葉が盛り込まれていると、多くの人に身近に感じてもらえる計画になるのではないか。
- ・「地域共生社会」の実現は、福祉分野の政策・施策だけでなく、地方創生、まちづくり、教育、労働など、地域の持続性を高める施策との密接な連携が求められることから、それらを踏まえて盛り込んではどうか。
- ・「地域共生社会」の実現にあたっては、支援をする側、受ける側だけでなく、市民一人一人がそれぞれの立場で参加することができる社会を作っていくことが重要である。多数派の方々だけでなく、LGBTのほか子どもや若者、一人暮らしの高齢者などの少数派の方々であったり、なかなか今の社会の中での生きづらさを感じている方々が、自分たちもこの地域の中で暮らしていったらいいのだと実感してもらえるような社会をつくることが見えるようにしてはどうか。

- ・政策名の「生涯にわたる健康で安心な暮らし」や「自分らしくいきいきと安心して暮らせる地域共生社会」の実現を図るためには、いかに若いころから地域の中で関係性が築けるかということが重要だと思われる。子どものころから地域に関わり、中高年になっても地域と接点を持ち続ける重要性を強調してはどうか。
- ・若者に対する支援や困窮女性に対する支援の観点も盛り込んでどうか。
- ・介護や看護の人材確保の状況を測る指標を追加してはどうか。

## 7 区におけるまちづくりの方向性

### (1) 区におけるまちづくりの方向性

- ・区ビジョン基本方針と新潟市全体の都市構想との関連や、各区どうしの連携、全体イメージの中での区の将来像や区を横断したまちづくりなどについて記載した方が良いのではないか。

### (2) 区ビジョン基本方針

#### 東区

- ・「東区独自の魅力を活用し区内外へ発信することにより、だれもが魅力を感じることができる街を目指します。」の記載について、魅力を感じてもらうことで”東区としてどうなりたいのか”という観点まで記載してはどうか。

#### 中央区

- ・「歩きやすく自転車や公共交通で移動しやすい環境の整備」の記載について、未来を見据えて、次世代モビリティの観点も加えてはどうか。

#### 西蒲区

- ・「広大な越後平野には手入れの行き届いた水田や畑が広がり」という表現について整理が必要ではないか。